



建築とまちづくり 公共建築と文化の継承に向けて

人口減少時代では公共施設の維持管理コストが大きな負担となっています。しかし、親しまれた建物の歴史や文化が消えてしまう廃止や建て替えが適当な方法かは議論のあるところですが、これからの時代に公共建築の維持、更新はどうするべきか意見交換します。

2024年

開催日 第1回 7月31日(水) 終了

第2回 10月10日(木)

時間 14:00～16:00 受付 13:30～

会場 びわ湖ホール3F
研修室

住所 〒520-0806
滋賀県大津市打出浜15-1
京阪電車石山坂本線「石場駅」から徒歩約3分

第1回

公共建築のリノベーションの可能性 ー建築文化の継承に向けてー

終了

地方公共団体は所有する建築物の約半数が竣工後30年以上を迎えており、維持・更新の対応を迫られています。公共建築の建て替えが進められる一方、既存の建物をリノベーションしてまちづくりに活かしていく事例も増えています。後者は建築文化を次世代に引き継ぐ取り組みとしても注目されています。公共建築の維持・更新はこれからどうするべきなのでしょう。最近の事例を見ながらその方法について考えます。

参加のお申し込みは、ホームページ（右の二次元コード）の申込フォームから。定員（40名）になり次第、締め切ります。



文化・経済フォーラム滋賀

検索

URL <https://biwako-arts.or.jp/rd/bunkakeizai>

第2回

文化ホール建築の再生活用を考える

参加者募集中

公共建築の中でも文化ホールというビルディングタイプに注目し、それらの改修事例を通して機能更新のあり方を考えます。県内のホールを例に、それらの活用法についても提案します。



講師紹介 玉田 浩之氏

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科准教授。

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程修了、博士（学術）。近代建築史、建築保存再生論を専攻。一般社団法人リビングヘリテージデザイン理事。大阪府や兵庫県の文化財保護審議会、伝統的建造物群保存地区審議会の委員を歴任。編訳書に『近代建築保存の技法』（鹿島出版会2012）がある。

